



# がん医療従事者のストレス予防

[キーワード: 医療従事者, がん, ストレス, 共感疲労, 二次的トラウマティック・ストレス]

准教授 福森 崇貴

## <研究の概要>

近年、がん患者への支援体制が強化される一方、がん医療従事者の高いストレスや離職率の上昇が問題となっている。医療従事者には、患者に対する共感性や思いやりが求められるが、ときに彼らは、患者の過酷な体験に感情的に巻き込まれてしまうこともある(Herschbach, 1992)。その最たるものが、「共感疲労」と呼ばれる現象である。

共感疲労とは、外傷的な出来事を経験した人を援助する、もしくは援助しようとすることによって生じる自然な結果としての行動や感情(Figley, 1995)であり、二次的トラウマティック・ストレスと同義とされている。そして、がん医療従事者は、共感疲労に陥るリスクが高いことが知られている(Potter et al., 2010)。がん医療従事者の共感疲労は、直接的には彼らの健康に影響を及ぼし、間接的には、生産性の低下や離職率の上昇といった職場への影響を通して、彼らに関わるがん患者に被害をもたらす(Pfifferling & Gilley, 2000)という点で重大な問題である。

上記の背景を受け、がん医療従事者のストレス、特に共感疲労の予防に向けた研究を行っている。具体的には、以下の3点を研究の柱としている。

- 1) 共感疲労リスクとなる状況要因および認知的要因の特定
- 2) 共感疲労予防のための教育ツールの実施可能性の検討
- 3) 教育ツールによる共感疲労予防効果の検証

がん医療領域において、共感疲労という現象は経験的に認められているものの、データに基づいた議論や介入法は未だ少ない(Potter et al., 2013)。よって学術的には、日本人を対象に共感疲労のリスク要因を実証的に検討すること自体が新しい試みとなる。また、社会的にも、作成された教育ツールは、具体的な支援システム構築に貢献をもたらすものと考えられる。

## <主要研究業績>

・福森 崇貴(2015)「リラクゼーション練習と腹式呼吸」堀越勝・安藤 哲也(監訳)『慢性疾患の認知行動療法—アドヒアランスとうつへのアプローチ ワークブック—』, 診断と治療社, 99-106.

・福森 崇貴(2013)「筆記による感情開示」内富庸介ら(監訳)『がん患者心理療法ハンドブック』, 医学書院, 155-178.

・Takaki Fukumori, Atsuko Miyazaki, Chihiro Takaba, Saki Taniguchi, & Mariko Asai (2017) Cognitive reactions of nurses exposed to cancer patients' traumatic experiences: A qualitative study to identify triggers of the onset of compassion fatigue., *Psycho-Oncology*, pon.4555

・Takaki Fukumori, Hiromi Kuroda, Masaya Ito, & Masami Kashimura (2017) Effect of guided, structured, writing program on self-harm ideations and emotion regulation., *The Journal of Medical Investigation*, 64, 74-78.

## <連携・共同研究可能なテーマ>

医療従事者のストレス予防, 慢性痛への心理社会的介入

専門分野 : 臨床心理学・医療心理学・サイコオンコロジー

E-mail: t.fukumori@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7194

Fax : 088-656-7194

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/185878/profile-ja.html>